

令和7年度
「田原市市民協働まちづくり事業補助金」
事業報告会

報告資料

	団体名
1	子育てサークルここしか(通常枠)
2	一般社団法人ほっきょく(通常枠)
3	育ち愛まるしえ実行委員会(新規団体枠)
4	Blue Wings(新規団体枠)
5	リ・ライト(新規団体枠)

○ 通常枠（補助率 1 / 2 ・ 上限 20 万円）

【補助額】 200,000 円

【団体名】 子育てサークルここしか

【事業名】 子育て世代のいのちの学び

報告項目	内 容
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・お米を手作業で育てること、豚を育てて食べることによって、自然の恵みや仕組みを考える。 ・食べるということは他の命をいただいているということが実体験を通して感じる。 ・豚の成長を見守る中で、環境のことや地球のこと、自分達の生活を見つめなおす。 ・自然の中で協力し知恵を出し合いながら活動する。 ・保護者も子どもを見守りながら学び、みんなで子育てをする。
事業の成果	<p>●【田んぼ体験について】</p> <p>お米を手作業で育てることによって、どのように作られているか知り大変さや生産者の方への感謝の気持ちが芽生えた。自然の恵みや仕組みを理解することができた。私たちがどうやって生きてきたか、これからどのようにして生きていけばよいか理解し、意識を向けることができた。</p> <p>●【豚の体験について】</p> <p>豚を育てて食べるという体験を通して、いのちをいただくことへの感謝の気持ちが芽生えた。食べるということは他の命をいただいているということが実体験を通して感じるすることができた。豚の成長を見守る中で、環境のことや地球のこと、自分達の生活を見つめなおすきっかけになった。自然の中で協力し知恵を出し合いながら活動することができた。保護者も子どもを見守りながら学び、みんなで子育てをすることができた。年間を通してイベントを行ったことで、子ども同士も大人同士も可顔見知りになり、安心できる居場所になっていると感じた。子どもも大人もなかなかできない経験ができ、心が充実し成長することができた。</p>
今後の展開	<p>・田原市以外の参加者が増えてきているが、参加者に対して運営メンバーの数が足りていないと感じる。今後、子どもを見守るボランティアを検討していきたい。補助金を活用して現在活動できているが、補助金がもらえなくなったときにどうやって活動を継続していくかも検討していきたい。いのちの学びの活動は今後も、大人のためにも未来の子どもたちのためにも渥美半島の良さを生かしながら活動していきたいと考えている。</p>

子育て世代のいのちの学び

子育てサークル ここしか



4月 もみまき

一つの穴に二粒ずつ入れました。
計算すると4粒でお茶碗一杯になるね！と
話しながら、
お米のエネルギーを感じました。

4月 しろかき

泥の感触が気持ちよくて
自然と笑顔になりました。



5月 田植え

1日かけて全部手作業で行いました。
子どもも大人も関係なく泥まれになり
ながら必死で植え続けました！子ども
も大人が夢中になっていました。



5月田植え

自分の子どもじゃなくても、抱っこしたりおんぶしたり、みんなで子育てしている感じが心地よかったです。



7月 草刈り

稲をかきわけて生えている草を抜きました。



7月 お茶碗づくり

渥美焼の作家さんを講師にお招きして、お茶碗づくりを体験しました。渥美の伝統文化、資源、出来るまでの工程を知ることができ本物に触れる貴重な経験になりました。



9月 はざづくり

竹をどうやって組むのがいいか、みんな考えながら作りました。できあがると、はざかけがアスレチック状態になりました。子どもは遊びの天才です。



9月 稲刈り



鎌で稲を切る人、縛る人、運ぶ人、はぎにかける人、足りないところに子ども大人も動いて、すばらしい連携でした。



10月 脱穀 もみすり



自分のお米をつくると思うと子どもたちもよく働きました。



12月 収穫祭

お米をお釜でご飯を炊いて、藁でしめ縄を作って、自分たちの田んぼの真ん中で自分の作ったお茶碗で食べました。とても幸せな気持ちになりました。



1月 お餅つき



自分たちで作ったもち米でついた餅は格別でした。親戚の集まりのような場ができました。笑

お米を育てる体験を通して

- ・お米を手作業で育てることによって、どのように作られているか知り、育てる大変さや生産者の方への感謝の気持ちが芽生えた。自然の恵みや仕組みを理解することができた。私たちがどうやって生きてきたか、これからどのようにして生きていけばよいか理解し、意識を向けることができた。
- ・お米づくりを通して虫や土や風など五感で感じることもできた。
- ・田んぼの風景うや、大変だったことことや楽しかったことを思い出しながら家族で食卓を囲むことができた。
- ・一粒一粒の大切さを体験を通して感じることもできた。
- ・自分たちが作ったお米を自分の作ったお茶碗で食べることは万倍の喜びを味わうことはできた。
- ・去年はハザが壊れて何回も直したり老力を費やした。その失敗から学び、考え、工夫することで今年のハザは丈夫にでき、それも成功体験につながった。
- ・一見効率の悪いことでも、時間や労力をかけることで豊かな気持ちや情緒が育まれみんなで子育てしているような場ができた。

豚の飼育体験

餌の作り方、豚さんの特徴や性質をわかりやすく教えていただきました。



去年の最後にお肉をいただいた経験から子どもから子豚に何度も会いにいき豚さんに触れたり、餌をあげる機会が増えました。



豚の飼育体験

餌を作ってあげたり、豚さんと触れ合ったり、豚さんの成長を感じました。



自分のあげた餌で多くなった豚、その豚を食べて大きくなっている自分のことを話したり、子どもの中でいただいた命で成長している意識があると感じました。

豚の飼育体験



豚さんと最後の日は、子ども達何かを感じているのか豚さんから離れませんでした。

豚の飼育体験

今年は1頭熱中症で亡くなってしまいました。食べられことなく廃棄されてしまうことはあることも知りました。本当にいただける命に、「ありがとう」と残さず大事にいただこうと思いました。



豚を育てる体験を通して

- ・スーパーで売られているお肉が、どのような工程を経て並んでいるのか知ることができた。
- ・子ども達が豚を育てて食べるという体験を通して、いのちをいただくことへの感謝の気持ちが芽生えた。
- ・食べることは他の命をいただいているということが実体験を通して感じる事ができた。
- ・豚の成長を見守る中で、環境のことや地球のこと、自分達の生活を見つめなすきつけになった。
 - ・自然の中で協力し知恵を出し合いながら活動することができた。
- ・人は生きることは多くの命を頂くこと、殺すこと。いろんな命に支えられていることを実感した。
 - ・自然の中で協力し知恵を出し合いながら活動することができた。

1年間の活動を通して

今年は命の勉強会のお泊まりツアーも実施し、オーナーさんとも寝食共にすることで学びだけでなく信頼関係が深まったり、みんなで子育てしている環境が創られているなと感じました。

勉強会では殺すこと死ぬことも含め、食べる。とゆうことに命への敬意や責任も感じました。

スーパーで並んでいるお肉を何匹の命、何頭の命と見るようになりたくさんはいらないからおいしく頂ける分だけと思うようになりました。

お米、豚を育てる側が命をどう扱うかも大切にしていきたいです。

いのちの学び場を実施するわたしたちも年々学びが深まり、場作りや伝えることで成長させてもらえる機会になっています。ありがとうございました。

○ 通常枠（補助率 1 / 2 ・ 上限 20 万円）

【補助額】 138,000 円

【団体名】 一般社団法人ほっきょく

【事業名】 たはらマーブルタウン 2025

報告項目	内 容
事業概要	<p>「たはらマーブルタウン 2025」は、小学生が仮想都市の住民となり、役場・銀行・警察などへの就労や起業・出店、税金の納付、国王の選挙など、まちの経済・自治の仕組みを一から体験するイベントである。2024 年度に続く 2 回目の開催として、2025 年 8 月 30 日（土）・31 日（日）の 2 日間、田原福祉センター 3 階にて実施した。小学生 96 名・学生ボランティア 52 名、計 148 名が参加した。</p> <p>運営面では、前年度の経験を経て高校生 5 名がコアメンバーとして加わり、2025 年 4 月から週 1 回の定例会議を重ねながら企画立案・準備・当日運営までを主体的に担った。今年度の特色として、地元企業イノチオ精興園株式会社から提供を受けた花を活用した「フラワーショップブース」と、高校生環境保護団体「リ・ライト」が廃油を再利用したインテリアキャンドル作りを体験できる「リ・ライトブース」を新設し、田原の地域資源や環境問題と結びついた内容を取り入れた。</p>
事業の成果	<p>小学生は仮想通貨「マーブル」を稼ぎ使う体験や銀行・税金・選挙といった一連の経済・自治活動を通じて、社会の仕組みを実感を伴って学んだ。接客・取材・出店など多様な役割を担うことでコミュニケーション能力が向上し、疑似社会の中で課題に自主的に向き合う問題解決能力も育まれた。前回参加者の多くが自宅で出店準備を整えて再参加するなど、イベントへの主体的な関わりが深まっており、地域に根ざした継続的な学びの場として定着しつつある。</p> <p>学生スタッフは企画・運営・当日対応の全過程を担うことで、実践的なリーダーシップを培った。フラワーショップブースとリ・ライトブースの設置により、田原の花産業や廃油の適正処理・環境保護についての学習機会が生まれ、地域企業・団体との連携という面でも広がりを見せた。</p>
今後の展開	<p>運営面では、当日の参加人数・ブース数の増加に伴い、スタッフの役割分担や会場レイアウトのさらなる最適化が課題として明確になった。学生ボランティアの継続的な確保と育成の仕組みを整え、コアメンバーが翌年の後輩を指導・引き継ぐ体制を構築することが次の優先事項となる。</p> <p>内容面では、田原ならではのブースをさらに充実させながら、地域の企業や団体との協力関係を広げていく。選挙や政策づくりなどのプログラムをより工夫することで、子どもたちが「自分たちのまち」として自分から関わられるイベントにしていく。引き続き田原市の恒例行事として根付かせ、将来的には参加人数を増やしたり開催回数を増やしたりすることも考えながら取り組んでいく。</p>

たはらマーブルタウン2025開催報告




子どもたちの仮想都市マーブルタウン

[企画・主催] 一般社団法人ほっきょく
[所在地] 〒441-3421 愛知県田原市田原町萱町79-4
[メールアドレス] hokkyoku3t@gmail.com

マーブルタウンについて

・子どもたちの 「ミニチュア版の町」

「マーブルタウン」は、子どもたちが仮想都市の住民となり、職業体験や経済活動、まちづくりを通じて、自ら考え行動する力を育むことを目的としています。

 社会性、主体性、コミュニケーション能力の向上



2日間で148名が参加しました

- ・ 小学生96名・学生ボランティア52名が田原福祉センターに集まりました。



高校生コアメンバー「5人の高校生がイベントを作り上げる」

- ・ 企画立案・準備・当日運営まで、学生自身の手で作りました。



職業体験・経済活動

- - 役場、銀行、警察、放送局などでの仕事体験
- - 仮想通貨「マール」を稼ぎ、使用する経済活動
- - 店舗出店の体験を通じた経営
- - 税金納付などの社会システム体験

仮想都市の様子「小学生が"まちの住民"になる2日間」

- - 役場、銀行、警察、放送局などでの仕事体験



仮想都市の様子「小学生が"まちの住民"になる2日間」

- - 仮想通貨「マール」を稼ぎ、使用する経済活動



仮想都市の様子「小学生が"まちの住民"になる2日間」

- 出店・起業「自分でお店を開いて、売って、稼ぐ」



仮想都市の様子「小学生が"まちの住民"になる2日間」

- - 税金納付などの社会システム体験



まちづくり活動

- - まちの代表者（国王）を選ぶ選挙活動と投票
- - まちの代表者（国王）選出によるリーダーシップ体験
- - まちの運営への主体的な参画

まちづくり活動

- - まちの代表者（国王）を選ぶ選挙活動と投票



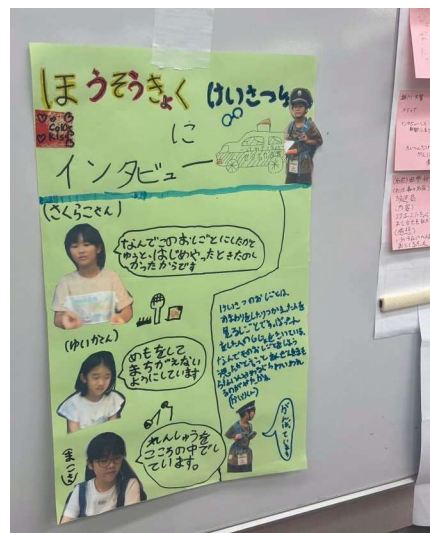
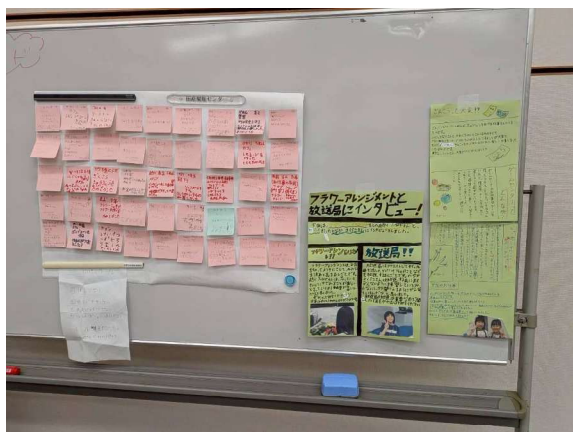
まちづくり活動

- - まちの代表者（国王）選出によるリーダーシップ体験



まちづくり活動

- ・ - まちの運営への主体的な参画



フラワーショップ「田原の花を使ったフラワーショップブース」

- ・ 地元企業イノチオ様のご協力で、田原の花産業を学ぶ



リ・ライトブース「廃油からキャンドルを作り、環境を学ぶ」

- ・ 廃油の正しい処理方法や環境保護の大切さを伝えました



参加者の声

小学生の声

- ・ 「フラワーショップで花をラッピングできて楽しかった」
- ・ 「リ・ライトで廃油からキャンドルが作れてすごかった」
- ・ 「前回より出店の準備をしっかりとってきて、たくさん売れた」
- ・ 「国王選挙に立候補して、まちのことをいっぱい考えられた」

参加者の声

学生ボランティアの声

- ・「週1回の会議で仲間と一緒に企画を作り上げていく過程がとても楽しかった」
- ・「子どもたちが前回の経験を活かして準備してきてくれたことがとても嬉しかった」

事業収支 総事業費 310,155円

【収入】 田原市補助金 138,000円、企業協賛金 111,000円、
自己資金 61,455円

【支出】 消耗品 196,000円、広報・印刷 75,000円、
保険料 6,000円、ボランティア飲食・その他 33,000円

テント・スピーカー・チラシ・紙幣デザインなど、イベントの環境整備に活用。

まとめ「たはらマーブルタウンは、地域の子どもたちの学びの場へ」

・たはらマーブルタウンは、田原の子どもたちの学びの場へ地域企業・団体との連携をさらに広げながら、田原市の恒例行事として毎年続けていくことを目指していきます。

一般社団法人ほっきょく：たはらマーブルタウン実行委員会

○ 新規団体枠（補助率10/10・上限7万円）

【補助額】46,000円

【団体名】育ち愛まるしえ実行委員会

【事業名】育ち愛まるしえ

報告項目	内 容
事業概要	<p>本事業は、「良いママよりも、幸せなママへ」をテーマに、渥美半島・東三河地域の子育て世代を対象として開催した体験型マルシェです。子育て・仕事・家事など日々追われるママ・パパが「自分を大切にする時間」を持ち、心を緩められる場を地域の力で創出することを目的としました。</p> <p>開催概要は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日時：令和7年11月1日（土）10:00～15:00 ● 会場：あつみの市レイ（田原市福江町堂前60） ● 来場者数：約370人 ● 出店数：30ブース ● 運営スタッフ：中学生・高校生・大学生・保育士ボランティア等 約60名 <p>主な取組内容：</p> <p>① ステージプログラム 龍宮太鼓によるオープニング、海の環境ワークショップ、藁細工体験、童謡コンサート、紙芝居読み聞かせなど、地域資源と多世代参加型プログラムを実施。</p> <p>② 癒し・リラクゼーションブース ヘッドマッサージ、ネイル体験等を設置し、ママが安心してリラックスできる時間を提供。</p> <p>③ 子ども体験・ワークショップ ママが安心して癒されることができるよう、子どもが楽しめる「縁日ブース」を設置。以下の5つの体験を提供しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● かき氷作り体験 ● ポップコーン作り体験 ● ボール入れ ● おもちゃ金魚すくい ● コインゲーム <p>各ブースでは中高生ボランティアが小さな子どもたちに丁寧に声をかけながらサポートを行い、自然な異世代交流が生まれました。</p> <p>また、現役保育士による「赤ちゃん抱っこサポーター」を配置し生後2か月の赤ちゃんから1歳未満の乳児をママのそばで預かる体制を整備しました。「安心して上の子と向き合う時間が持てた」「安心して施術を受けられた」といった声が寄せられました。</p> <p>会場全体は終始和やかな雰囲気に入れ、中高生が自然と子どもたちへ</p>

	<p>思いやりある声かけをする姿や、ママが安心して癒される表情が印象的でした。</p>
事業の成果	<p><u>子育て世代の心理的安心感の向上</u> 「子どもを安心して任せられる環境があることで、自分の時間を持てた」という声が多数寄せられました。ママの心身のリフレッシュと、家族関係の質向上につながる効果が見られました。</p> <p><u>異世代交流の促進</u> 中高生ボランティアが主体的に子どもへ声かけを行い、自然な形で世代を超えた関係性が構築されました。地域の若者が「支える側」として関わる成功事例となりました。</p> <p><u>地域コミュニティの可視化</u> (子育て世代の) 出店者アンケートでは「地域にこんな場所がもっとほしい」「また参加したい」との声が多く、地域内の潜在的ニーズの顕在化につながりました。</p> <p><u>多団体連携の実績</u> 市内団体/中高大学/企業/ボランティアチームと連携し、協働による運営モデルを実践しました。</p>
今後の展開	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続開催に向けた安定的な運営体制の構築 ・ボランティア育成と役割分担の明確化 ・安全管理体制のさらなる強化 ・財源の確保 <p>【今後の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あつもりPJ（自然まなび舎構想）へ移行し子育て支援/多世代交流の拠点形成を目指す ・中高生ボランティアの育成プログラム化 ・市内団体/事業者との協働事業への発展を目指す ・農業（畑/田）や伝統文化（寺/神社/太鼓/陶芸）環境問題（ウミガメ保全等）の団体と連携し、子どもや母親の体験の場を通して生きる力を育み、渥美半島の資源の再確認機会の場を創出 <p>*本事業は、「共に育ち、愛し、支え合う」地域循環のモデルケースとして発展可能性を有しています。</p>

育ち愛まるしえ 活動報告

2026.3.26

育ち愛まるしえ実行委員会

代表 山田ひろ子



目的

良いママよりも、幸せなママへ

渥美半島・東三河地域の子育て世代を

対象とした体験型マルシェ

子育て・仕事・家事など日々追われるママ・パパが
「自分を大切にする時間」を持ち、
心を緩められる場を地域の力で創出

事業概要

- 日時：令和7年11月1日（土）10:00～15:00
- 会場：あつみの市レイ（田原市福江町堂前60）
- 来場者数：約370人
- 来場範囲：名古屋市/浜松市/静岡市/豊川市/新城市他
- 出店数：30ブース
- 運営スタッフ：
中学生・高校生・大学生・保育士ボランティア等 約80名

①ステージ：地域資源と多世代参加型プログラム

龍宮太鼓によるオープニング



海の世界ワークショップ



①ステージ：地域資源と多世代参加型プログラム

藁細工体験



童謡コンサート



どんぐり通貨を
採用し、子どもにも
利用しやすく工夫



紙芝居読み聞かせ

②癒し・リラクゼーションブース

マッサージ体験



ネイル体験



ママが安心して
リラックスできる
時間を提供



カラー診断



③子ども体験・ワークショップ

ポップコーン



自然な異世代交流

中高生ボランティアが
小さな子どもたちに
丁寧に声をかけながらサポート



かき氷

金魚すくい



コイン落とし



ボール☆イン



飲食ブース



現役保育士「赤ちゃん抱っこサポーター」



「安心して上の子と
向き合う時間が持てた」
来場したママより



事業の成果

- 子育て世代の心理的安心感の向上
- 異世代交流の促進
- 地域コミュニティの可視化
- 多団体連携の実績



今後の展開

- あつもりPJ（自然まなび舎構想）へ移行し子育て支援/
多世代交流の拠点形成を目指す
- 市内団体/事業者との協働事業への発展
- 農業や伝統文化、環境問題の団体と連携し、
子どもや母親の体験の場を通して生きる力を育み、
渥美半島の資源の再確認の機会の創出

ご静聴、ありがとうございました



運営スタッフ
総勢79名



○ 新規団体枠（補助率 10 / 10 ・ 上限 7 万円）

【補助額】 57,000 円

【団体名】 Blue Wings

【事業名】 スマイルビーチクリーン～海から始まる幸せ～

報告項目	内 容
事業概要	<p>「海のゴミをなくし、その魅力を伝えたい」という想いのもと、愛知県田原市の白谷海浜公園にて月 1 回の定期清掃を実施。単なるゴミ拾いに留まらず、回収したマイクロプラスチックをアクセサリー（イヤリング・ピアス等）やキーホルダーへと再生する「アップサイクル」に取り組んだ。清掃・加工・販売という一連のプロセスを通じて、廃棄物の削減と資源循環（サーキュラーエコノミー）を地域社会に提示する活動を展開した。</p>
事業の成果	<p>直接的な環境改善と資源化: 定期清掃により海浜公園の景観維持と生態系保護に寄与。また、ゴミを「素材」として再利用することで、廃棄物量の削減と資源の有効活用を実現した。</p> <p>環境意識の変容（自分事化）: 清掃に「材料収集」という目的が加わったことで、参加者がマイクロプラスチック問題を身近な課題として捉える機会となった。意識が「義務」から「創造」へと変わり、SDGs の重要性を体感する教育的効果が得られた。</p> <p>地域への波及と魅力発信: アップサイクル商品の販売を通じ、普段環境活動に馴染みのない層へ視覚的に問題を提起。田原市の海の新たな魅力を発信し、地域への愛着（シビックプライド）を育むきっかけとなった。</p>
今後の展開	<p>活動の継続性と仕組みづくり: ボランティアベースの活動を安定させるための運営体制の強化や、制作工程の効率化が課題である。</p> <p>周知の拡大と教育連携: 今後はさらに多くの市民や学生を巻き込み、学校教育や地域イベントとの連携を深めることで、環境教育の場としての質を向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱プラスチックの呼びかけ（絵本、マイボトル、エコバックなどの製作） <p>アップサイクルの多様化: 商品ラインナップの拡充や、他団体とのコラボレーションを通じ、より広範な層に「持続可能な社会づくり」への参加を促していく。</p>

スマイルビーチクリーン

～海から始まる幸せ～

Blue Wings

事業内容

- ・ 月一回海のゴミ拾いの実施
- ・ ゴミのアップサイクル商品の販売

スマイルビーチクリーン



アップサイクル商品



成果

- ・ 環境保全と資源循環の実践
- ・ 環境教育と意識の「自分事化」
- ・ 地域への波及と田原市の魅力発信

今後の事業展開

- ・ 月一回海のゴミ拾いの継続
- ・ 海に関する絵本の制作

市や他団体との連携

- ・ 市民参加型のゴミ拾いイベント
- ・ 海洋生態系保全の啓発活動

○ 新規団体枠（補助率10/10・上限7万円）

【補助額】45,000円

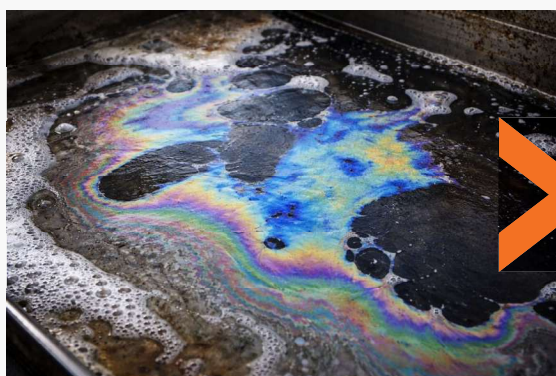
【団体名】リ・ライト

【事業名】アップサイクル環境啓発プロジェクト～リ・ライト～

報告項目	内 容
事業概要	<p>日常生活から排出される「廃油」や「海洋ごみ」に着目し、これらを「アップサイクル（価値を高めた再利用）」の手法で新たな製品へ生まれ変わらせる環境啓発プロジェクト。具体的には、家庭の廃油と使用済みカイロ（鉄粉・活性炭）を活用した独自のろ過技術を確立し、インテリアキャンドルを製作。また、海岸清掃で回収した廃プラスチックを用いたアクセサリ製作・販売、およびこれらを題材としたワークショップを各地で開催した。</p>
事業の成果	<p>環境負荷の低減と技術の確立: 廃棄物を高付加価値な製品へ転換する独自モデルを実践し、水質汚染防止と資源循環の重要性を可視化した。</p> <p>市民の意識変容と教育的成果: ワークショップを通じ、参加者が素材に触れ思考するプロセスを提供。「火を灯さないエコ」という新価値の提案は、特に子どもたちの柔軟な環境思考を育み、「自らの行動で価値は変えられる」という当事者意識を醸成した。</p> <p>地域愛（シビックプライド）の向上と波及: 高校生主体の発信や地元事業者との協働により、世代を超えた「応援の循環」を構築。メディア等を通じた発信により、田原市の豊かな自然と持続可能なまちづくりの姿勢を広く周知した。</p>
今後の展開	<p>活動の継続性と安定供給: ワークショップや販売の需要増加に対し、製作工程のさらなる効率化と、活動資金の安定的確保が課題である。</p> <p>地域循環モデルの深化: 今後は、田原市ならではの「地域内で捨てられるものを地域で価値に変える」循環モデルをさらに強化する。</p> <p>次世代への継承: 教育機関等との連携を深め、防災・環境教育の場を広げる。本活動を通じて課題を「自分ごと」化する仲間を増やし、子どもたちが地域の未来を創る社会の実現に挑戦し続ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的にワークショップの開催及び啓発活動

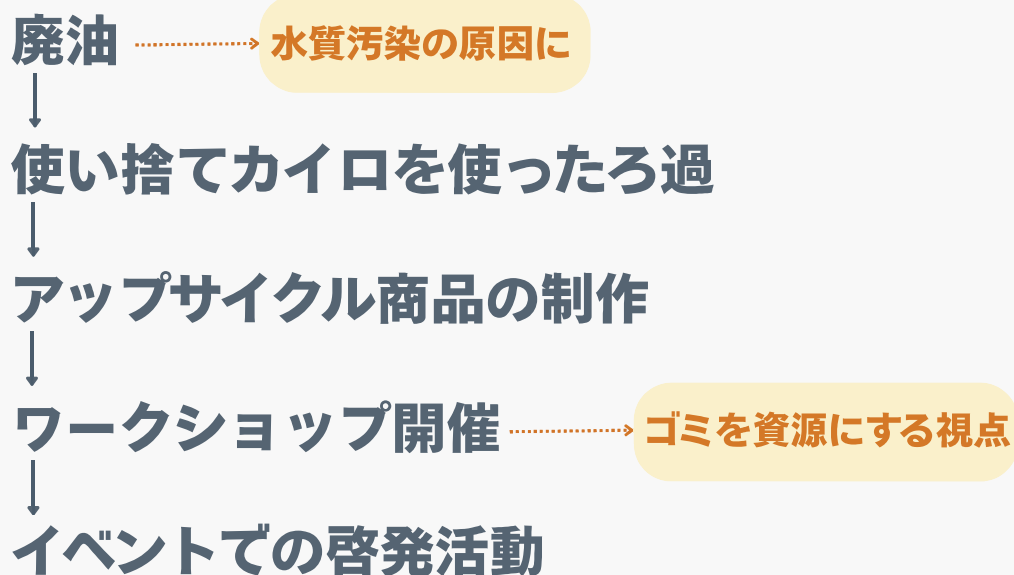
アップサイクル環境啓発プロジェクト リ・ライト

学生団体 リ・ライト
代表：伊藤 綺香



環境問題を“自分ごと”に

事業内容



地域イベントでの活動



環境について考えるきっかけの場
+
地域との繋がりを感じる機会に

活動実績



活動日数：12日

イベント出店：4回

ワークショップ：2回開催

商品販売・体験参加：約14名

活動の成果 ①独自技術による資源活用の実践

廃油



カイロ



キャンドル



水質汚染の防止と資源の有効活用を具現化

活動の成果 ②体験を通じた環境意識の変化



ゴミを資源として考える視点



参加者



“自分の行動で環境を変えられる”当事者意識を育む

活動の成果 ③地域愛、シビックプライドの醸成

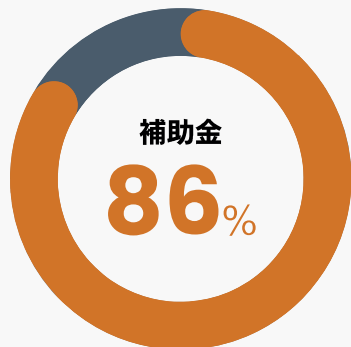


田原市の自然の魅力、持続可能なまちづくりの取り組みを伝える

補助金の活用

合計使用額：¥52,428

費用内訳



補助金使用

¥45,000

自己負担

¥7,428

総事業費
52,428円

● 補助金
45,000円

● 自己負担
7,428円

主な使用内容

- ・キャンドル材料
- ・制作道具
- ・ワークショップ用品
- ・ポスター/資料印刷

この活動の価値

廃油による水質汚染防止

環境

教育

地域

体験型の環境学習

地域交流・シビックプライド

今後の展開



ワークショップの拡大
廃油回収の仕組みづくり
地域での環境教育

連携の可能性

市

環境教育の取り組み

廃油回収の仕組みづくり

地域団体

イベント

ワークショップ

事業所

廃油の提供

商品開発



ご清聴ありがとうございました

Thank You for Your Attention